

2019 年 1 月



2019 年 社長年頭挨拶

株式会社 MCBI
代表取締役 内田和彦

皆さん、新年あけましておめでとうございます。

年頭の挨拶は、年の節目として旧年を振り返り、新たな気持ちで新たな年を迎え、経営者の考えを改めてお伝えする機会です。ここ数年来、私たちはパラダイムシフトの真ただ中にいます。パラダイムシフトとは、科学の進歩、技術革新によって起きる、社会におけるライフスタイルならびに価値観の大きな変化をいいます。すべてのモノがインターネットを通してつながり、人工知能(AI)が人間の仕事を効率的に代行するようになりつつあります。身近では、Google の検索サービス、音声サービス、Amazon や Apple が提供する音楽サービスがあります。近い将来、自動車の自動運転も実現するでしょう。

日本の 90 歳以上の人口は 200 万人をこえました。私たちにとって最も身近な、また真剣に考えなければならないパラダイムシフトは、高齢化による社会構造の変化です。人生 100 年時代をどう生きるかは、個々の人生設計に直結する重要な課題です。これまで人生は大きく 3つのステージでした。社会にでるまでの「学ぶ」期間、社会にでて働く期間、そしてリタイア後の期間です。60 才定年の場合、今や勤労期間とほぼ同じ時間をリタイア後に過ごさねばなりません。これからは質も含めて、私たちの人生は多様なステージとなるでしょう。

人生 100 年時代では、カラダ・ヒト・カネが足りているかがポイントになります。カラダとは健康であり、ヒトとは社会です。生活し、人生を享受するための財産形成も大切ですが、それはひとそれぞれの満足感があると思います。一方、人生において健康と社会との接点は必須です。年齢を重ねるごとに体の衰えはありますが、できるだけ長い期間、自立して社会生活を送れるようにしたいですし、多くの人との関わりをもつ社会生活は人生を豊かにします。

当社は、認知症など生活習慣病の予防医療の事業化を通して、人々の健康と社会活動の支援に寄与していきます。2018 年は MCI スクリーニング検査を付加サービスとする太陽生命の認知症予防保険が販売され、相乗効果が出つつあります。2019 年は、病気の超早期発見のための血液バイオマーカーの研究開発と検査の事業化だけでなく、検査後のフォローアップ体制を整え、健康支援事業に取り組んでまいります。ロールモデルがない分野です。皆さんの知恵が必要です。

新しい年を迎えるにあたって、お伝えしたいことが3つあります。

1. 健康第一

「栄養・睡眠・適度な運動」を心がけ、変化に気づいたらすぐ対応する。

健康で、家族がいて、社会に交わってという現役世代なら当たり前のことが、病気な
ってはじめてわかるありがたさです。少子高齢化社会では、病気にならないことが財
産、そのための予防が大切ですし、がんばって予防した結果として、アクティブな生
活が保障され、どういう形であれ社会の一員として元気に過ごせます。当社は、「体
の変化に気づかせ、すぐ対応する、そして予防を持続させる」を支援する事業を進
めていきたいと思えます。まずは自分からです。

2. すぐやる

足元をしっかりと固めつつ、中長期事業計画のためのアクションを着実に実施する。

この両方をしっかりと行うが必要で、片方だけではダメです。そのためには、目の前
の仕事を「すぐやる」ことです。それによって自分も、一緒に仕事している相手も、業
務が効率化し、その結果中期的なことに目配りができるようになります。早いレスポ
ンスはお客様、取引先により印象を持たれます。ビジネスはキャッチボール。剛速
球でボールを返しましょう。

3. 提案する

新しい提案をもとに常に改善し、事業を推進する。

事業を進めるためには、水泳でいけば、水中で常に足を動かしていなければなりま
せん。止めてしまえば成長はありません。場合によっては沈んでしまいます。常に工
夫し、提案し、合意させ、物事を前に進めることが私たちの仕事そのものです。考え
はA4用紙1枚で、3つの項目(背景・方法・期待される成果)にまとめて提案しましよ
う。また、お客様に応じて柔軟に対応することが大切です。画一的でなく個別にそれ
ぞれのニーズを解決する提案をしましょう。顧客関係管理(CRM)による情報のキャ
ッチと共有をしっかりと行ってまいりましょう。

新年を迎え気持ちを新たにして、お客様のための新しい提案、新しい取り組みをどんどん進
めてまいりましょう。